

第2回サンゴ礁保全行動計画 策定会議

モニタリングサイト1000 解析ワーキンググループ 現状評価と劣化要因

モニタリングサイト1000:解析ワーキンググループ 現状評価と劣化要因

【目的】

環境省モニタリングサイト1000事業におけるサンゴ礁モニタリングのデータ(平成15～19年度)を解析し、日本のサンゴ礁の現状の評価を行う。

【分科会】

解析ワーキンググループ: 専門家

岩尾研二(熱帯海洋生態研究振興財団・阿嘉島臨海研究所)

岩瀬文人(黒潮生物研究財団・黒潮生物研究所)

梶原健次(宮古島市企画政策部)

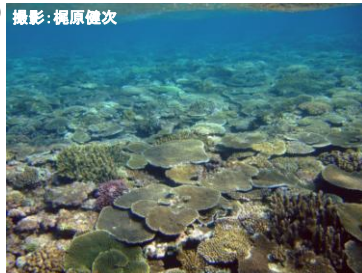
酒井一彦(琉球大学・熱帯生物圏研究センター)

佐々木哲郎(小笠原自然文化研究所)

野島 哲(九州大学・天草臨海実験所)

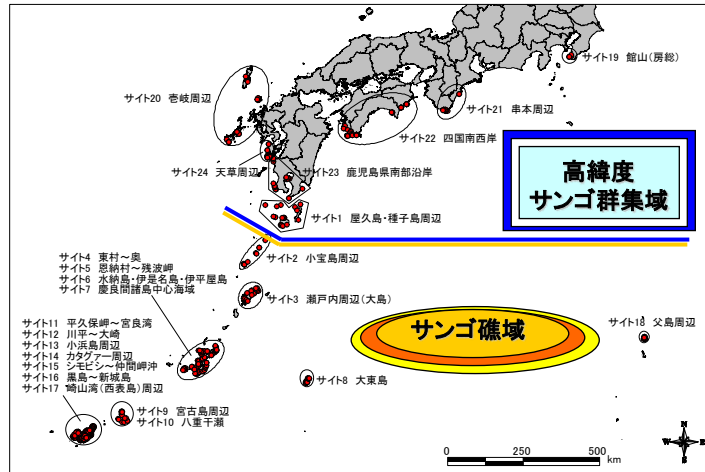
野村恵一(串本海中公園センター)

横地洋之(東海大学・海洋研究所)



モニタリングサイト1000:解析ワーキンググループ 現状評価と劣化要因

【サンゴ礁モニタリング】 全国24サイト(館山～西表島)

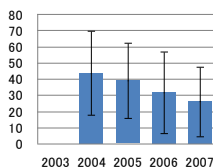


モニタリングサイト1000:解析ワーキンググループ 現状評価と劣化要因

【サンゴ礁の現状評価ーサンゴ礁域】

- サンゴ被度の減少
- 沖縄島:増加傾向を示すが、被度は非常に低い(過去の開発、赤土等で荒廃)

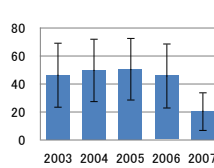
<平均サンゴ被度の変化>



サイト3:奄美群島

オニヒトデ
↓
(収束)

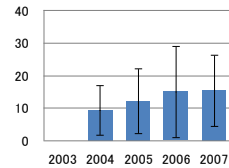
<平均サンゴ被度の変化>



サイト15:石西礁湖中央部

2007年大規模白化
+
オニヒトデ

<平均サンゴ被度の変化>



サイト4:沖縄島東岸

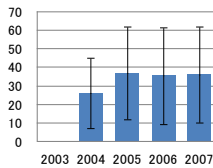
低被度
+
増加傾向

モニタリングサイト1000:解析ワーキンググループ 現状評価と劣化要因

【サンゴ礁の現状評価－高緯度サンゴ群集域】

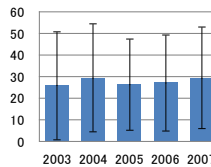
- 九州、四国：サンゴ群集の被度拡大・・・オニヒトデも増加
- 本州串本：台風、白化、オニヒトデなどの攪乱による被度減少

<平均サンゴ被度の変化>



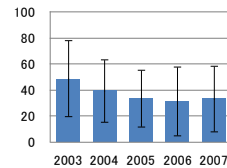
サイト23:鹿児島南部
被度増加
+
(オニヒトデ)

<平均サンゴ被度の変化>



サイト24:天草
やや増加傾向
+
(オニヒトデ)

<平均サンゴ被度の変化>



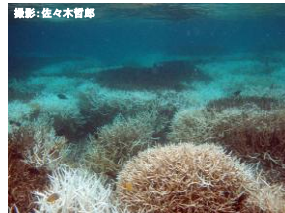
サイト21:串本
白化・台風
オニヒトデ・サンゴ食巻貝

モニタリングサイト1000:解析ワーキンググループ 現状評価と劣化要因

【攪乱の要因:オニヒトデ・白化・台風・病気・・・】

- 過去の開発・赤土(沖縄島等)
- オニヒトデ(串本・四国南西部・香岐・九州南部・天草)
(奄美群島(→収束)・慶良間(→収束)・宮古島・石垣・石西礁湖)
- 白化(2007年石垣・石西礁湖、2008年小笠原・串本)
- 台風(串本・石西礁湖)
- サンゴ食巻貝(串本・四国)
- 病気(石西礁湖ほか)

* サンゴ礁モニタリングでは、今ある良好なサンゴ群集を主に対象にしているため、極端にサンゴ群集が荒廃して悪い状態の地点は調査地点に選定されていない



モニタリングサイト1000:解析ワーキンググループ 現状評価と劣化要因

【サンゴ礁の現状】

- 過去の開発・陸域からの攪乱による荒廃からの回復の遅れ
- オニヒトデ、高水温の白化による度重なる攪乱
- サンゴ食巻き貝による慢性的な食害
- サンゴの病気の蔓延



健全な生息環境の維持と
効果的な保全対策